

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

◎特集 「戦後50年を記念する集い」における
外国青年招へい

●速報 総務庁青少年国際交流事業参加青年募集

マクロコズム '96.3



vol. 9

(財)青少年国際交流推進センター



▲ “Let us progress!” 外国青年代表としてスピーチを行うブラジルのボルバト氏とインドネシアのサヌシさん

「戦後50年を記念する集い」における外国青年招へい

1995年12月18日、戦後50年を記念し、将来の我が国及び世界の平和と繁栄を期するため「戦後50年を記念する集い」が、日本政府主催のもとに国立劇場で開催されました。

当日は、天皇后両陛下の御臨席を賜り、内閣総理大臣、衆参両院議長、最高裁判所長官、在本邦外交団代表を始め、内外の代表約1,300名が出席しました。また、このうち外国青年代表として招へいされた41か国82名については、奨青少年国際交流推進センターが受入れを担当し、国内滞在5日間のプログラムを企画、運営しました。式典では、三権の長及び在本邦外交団のあいさつ、天皇陛下のお言葉に続いて、外国青年代表と日本青年代表のスピーチが、それぞれ男女一組によって発表されました。なお、式典に続いて、アジアの民族楽器による音楽演奏と合唱がありました。

記念式典の前に、総理官邸に村山総理を表敬訪問する外国青年と受入委員



招へいプログラムは、記念式典への参加を中心として総理表敬、グループ別都内視察、ディスカッション、交流の夕べ、フェアウェルパーティなどが12月15日から19日の日程で行われました。

— スピーチ検討会 —

外国青年代表スピーチは、2名の代表者各個人のスピーチと82人の意見を集約した共同発表スピーチの3部から構成されており、共同発表スピーチ部分については受入委員会の素案をグループごとに検討した後、各グループの代表者による起草委員会を開いて決定しました。(本文P.6~7参照)



▲ スピーチ案を検討しているグループ・ディスカッション会場にて



— フリーディスカッション —

テーマ別のグループディスカッション。

参加青年にアンケート調査を行い8つの分野を設定したのち、再度希望をとるという丁寧な調整をした結果、とても熱心な討議が行われました。

青少年問題は、希望者が多く2グループ構成されました。

▼ 討議内容を発表する各グループの代表者



— 交流の夕べ —

終日のディスカッションの緊張を、一気に歌と踊りで発散する青年たち
民族衣装や踊りを披露しての楽しい時間



CULTURAL EXCHANGE
YOUTH INVITATION PROGRAM FOR
MARKING THE 50TH YEAR SINCE THE



— フェアウェルパーティ —

◀ 外国青年と談笑する野坂官房長官

記念式典に日本青年代表として全国から

▼ 参加した青年たちによる合唱



LET US PROGRESS!

先の大戦の終了から50年を迎えた1995年は、世界各国で多くの記念行事が行われ、戦争や平和について様々な観点から語られた年でしたが、我が国においても、日本政府主催の下に、12月18日に「戦後50年を記念する集い」が開催されました。この式典には、41か国から82名の外国青年も招へいされましたが、これらの青年の受入れについては、財団法人国際交流推進センターが総理府より依頼を受け、受入委員会を組織し企画、運営に当たりました。

わずか2か月足らずの準備期間という厳しい状況でしたが、最初に、会合の日程、準備手順、役割分担を決め、同時並行的に準備を進めました。

そうした中で、最も困難を感じたのは、外国青年

の代表スピーチ案の作成でした。

「41か国の青年のコンセンサスが得られ、かつ、今回の式典の場に相応しい内容とは何なのか。」スピーチ起草委員のメンバーは、議論に議論を重ねて内容を練るとともに、外国青年全体の意思としてまとめる手順についても検討を重ねました。

スピーチ起草のためのグループディスカッション当日、準備にかけたスタッフの熱意が通じたかのように、スピーチ案は外国青年たちに自然に受け入れられ、これを基にして熱心な討議が行われ、以下のとおりスピーチが完成しました。式典当日には、スピーカー2人により共同で発表されました。

「戦後50年を記念する集い」外国青年によるスピーチ

— 共同発表スピーチの部分 —

原文

シャフウィナ サヌシ ワハブ
ネリ ヴォルバト

世界41か国からこの集いに招待された82人の外国人青年を代表して、世界の平和と繁栄の実現に向けた決意のメッセージを申し上げます。

初めに、この記念すべき集いに出席させていただいたことに感謝します。

On behalf of 82 youth invitees from 41 countries around the world, we would like to present the message to state our determination to achieve the world's peace and prosperity.

First, we would like to express our words of appreciation for having the opportunity to attend this Assembly.

主 要 内 容

「戦後50年を記念する集い」	
における外国青年招へい……………	5～7
世界青年の船既参加青年連絡会議……………	8～9
全国大会(大阪)……………	10～11
総務庁青少年国際交流事業募集……………	12～13
「第8回世界青年の船」課題別視察……………	14～15
各地の活動(和歌山/群馬)……………	16～17
アンケート結果報告……………	18
インフォメーション……………	19～20
「第22回東南アジア青年の船」……………	21～22

〈表紙の説明〉

フィリピン
ストリートチルドレンの作品
作者名不明「夢」
アジアのこども絵画展より
優秀賞受賞作品

戦後 50 年が過ぎ、21 世紀の到来も目前に迫っています。我々は、歴史に学びつつ、様々な国の平和を愛する人々とともに、未来の世代に対して平和と繁栄の世界を残すよう努力してきました。しかし、地域紛争など、地球社会が克服すべき課題がなおあります。我々青年は、未来のリーダーとして、平和と繁栄を積極的に推進する責務を負っています。

科学技術の進歩と、産業の発展は私たちに多くの恩恵をもたらしました。人の移動やコミュニケーションの拡大によって地球は益々小さくなりつつあります。しかし、今日、いずれの国においても、貧困、公害、麻薬・犯罪といった深刻な問題が一層広がり、簡単に解決することは困難になっています。我々は共に、地球規模の広がりを持つ社会的、経済的な新しい課題に取り組まねばなりません。

このような状況のなかで、青年は、未来の社会の担い手として、より大きな責任を果たさねばなりません。

未来への希望を持ちつつ前進しましょう。

我々の未来は、我々の思想と行動にかかっています。若者が未来に希望を持つことは重要なことです。それはまた、より良い文明を創造する力になります。我々は、若者らしい生き生きとした感動する心を決して忘れません。たとえ失敗しても、我々は前に進み続け、未来に希望を持ち続けます。



Fifty years have elapsed since the end of World War II and the 21st century is approaching rapidly. Learning from our history and with efforts of peace loving people from different nations, we have strived to ensure a world of peace and prosperity for the future generations. However, there are still challenges, such as regional conflicts, for the global community to overcome. Therefore, we, the youth have a responsibility as leaders of the future to actively promote peace and prosperity.

The world's progress of science and technology and development of industries have contributed to many facets of our lives. The world is shrinking with the accelerated mobility of people and expanding network of communications. Nonetheless, in each country, serious problems such as poverty, pollution, drugs and crime have become more prevalent in our societies than ever before and defy easy solutions. Together, we must take on new challenges that encompass social and economic responsibilities on a more global scale.

Under these circumstances, the youth, who will play important roles in the future, must assume greater responsibilities.

Let us progress with hope for the future.

Our future depends on our thoughts and actions. It is important for young people to have hope for the future. This hope will in turn become a driving force to create a better civilization. We shall never forget the lively and impressionable nature of young people. Failures should not detour



我々のそれぞれの立場で行動を起こし、前進しましょう。

私たちは、経済的にも、文化的にも、様々な国に生きています。社会的な役割や、家庭内の役割も多様です。我々の課題やその解決の方法も様々です。しかし、我々一人一人が自己実現を図ることが、より良い社会をつくと確信します。

多様性を学び合い、協力し合いながら前進しましょう。

文化の多様性は我々の力です。異なる文化の交流は、我々の文化をより豊かなものにする力を持っています。開かれたコミュニケーションは、偏見や争いを少なくします。我々地球社会の構成員は、想像力と思いやりと柔軟性を持って、相互に理解し合い、尊重し合えるように、異なる文化、思想、宗教に対し、より心を開きたいと思えます。

我々が協力し合うならば、社会や経済の多様性は将来の発展のために不可欠なものです。我々はお互いの成功と失敗を学び、貴重な教訓を堅実な繁栄に生かさなければなりません。

この集いへの参加を機会に、未来に向けて前進を導くのは我々青年であると再確認したことは誠に有意義でした。ありがとうございました。

us from making positive advancement and cherishing our hope for the future.

Let us progress starting with our own individual actions.

We live in countries not only with different economic standards but also with different cultures. Our roles in our society and families differ from one person to another. Our tasks are widely diverse and so are our approaches to cope with them.

However, each and every one of us is fully convinced that demonstrating our own individualities will allow us to develop a better community.

Let us progress by learning from our diversity and collaborating with one another.

Cultural diversity is our strength. Intercultural exchanges have a potential to enrich our own culture. Open communication minimizes prejudice and disputes. We, the member of the global community, would like to be more open-minded to different cultures, thoughts and religions, so that we can be imaginative, sympathetic and flexible in understanding and respecting each other.

If we collaborate together, the diversity of our social and economic lives will be vital for future development. We must all learn from each others successes and failures; transferring invaluable lessons into meaningful prosperity.

It is very significant on this occasion to recognize that it is the youth who should take the lead to make our progress toward the future.

Thank you very much.



◀ 出航直前の「にっぽん丸」ドルフィンホールで13か国14名の代表を迎えてウェルカムパーティ。メキシコ代表のアドリアーナさんが今後の活動について抱負を表明。なお、このパーティは、毎年「世界青年の船」の出航前に開催されていた船上リユニオン・パーティとともに行われた。

世界青年の船既参加青年連絡会議

1月16日～21日の日程で、オセアニア・北・中南米方面（東回りコース）の「世界青年の船既参加青年連絡会議」が開催されました。この会議は総務庁青少年対策本部により招へいされた13か国から14名の外国参加青年代表者と日本青年国際交流機構のメンバーによって行われました。

これは、昨年メキシコのアカプルコで開催された第1回インターナショナル・リユニオンを受けて、本格的に既参加青年の国際的ネットワーク作りを目指して開催されたものです。

外国からの会議参加青年は、東京での会議を中

心とした公式日程の終了後、大阪では近畿ブロックのIYEO各府県へのホームステイを基本にした交流プログラムに参加し、関西空港から帰国しました。

この会議の結果、今後のネットワーク作りに向けて、名簿の整備、カントリー・レポートの作成、各国国内ニュース・レターの作成など具体的合意事項が決定され、日本を含む14か国の代表者15名により署名（日本はIYEO大橋事務局長が署名）がなされた合意書を作成できたことは、今後の活動に向けて大きな第一歩となりました。

各国同窓会を有機的に連携するための方策を、4つの側面から議論。chairmanは第7回のオーストラリアの指導官グリビン氏 ▶



「第8回世界青年の船」出航当日の船内で agreement にサインする各国参加者たち 今後の既参加青年ネットワーク作りの決意を 胸に秘めながら……



▲ サインアップした agreement を「第8回世界青年の船」管理官である笹島調査官に手渡し記念撮影（にっぽん丸カードルーム）



1996年「世界青年の船」既参加青年連絡会議合意書署名者

オーストラリア代表	ジュリアンヌ・ヒルバーツ	(第7回)
ブラジル連邦共和国代表	カルラ・モイタ・デ・カストロ・ペレイラ	(第7回)
カナダ代表	リン・ロバートソン	(第7回)
コロンビア共和国代表	ペドロ・カストロ・ハラミージョ	(第7回)
コスタ・リカ共和国代表	ルセ・マリア・カストロ・アラゴン	(第5回)
ドミニカ共和国代表	エイスリー・バージニア・ガルシア・ペレス	(第5回)
エクアドル共和国代表	ファン・ナヴァロ	(第7回)
フィジー共和国代表	ジョネ・モセ・バヴォノ	(第7回)
メキシコ合衆国代表	ベアトリス・アドリアーナ・アメスクア・アラゴン	(第7回)
ニュージーランド代表	ディアン・エリス	(第7回)
ソロモン諸島代表	ヨシユキ・サトウ	(第7回)
アメリカ合衆国代表	ニコール・プラマー	(第7回)
ヴェネズエラ共和国代表	ラファエル・ホセ・フェレール・アルバラコ	(第7回)
日本代表	大橋 玲子	(IYEO 事務局長)
議長	アンソニー・グリビン	(第7回指導官)

トピック

カナダの同窓会組織が、インターネットで「世界青年の船」のホームページを開きました。

<http://www.escape.ca/~rcomia/SFWY.html>

皆さんもアクセスしてみてください。世界に、事後活動のネットワークを広げようという仲間がいることを実感できますよ。

◀ 東京会議での2日目 IYEO 事務所において agreement をそれぞれ青年が分担して作成している様子。時間よ止まれ!



日本青年国際交流機構第11回全国大会大阪大会

「今、この時代を共に生きる」

HERE & NOW FOR WITNESS

(日時：1995年12月2日(土)～3日(日))
(会場：三井アーバンホテル大阪ベイタワー)

青少年国際交流フォーラム

まず、イーデス・ハンソンさんに「国際化時代のネットワーク作り」について軽妙な関西弁で

▼ 楽しく語っていただきました。



▲ 開会式には、大阪出身の中山総務庁長官(当時)が出席され、参加者へ激励のあいさつをされました



今大会の開催に当たっては、行動すること出来ることを意識し、事後活動の推進のために自らがまず行動してみるために、それぞれにあった活動の場を知り見つける機会を提供することを目標の一つとしました。そして、各都道府県機構の連携や各自の活動のための組織的支援体制を作るために、多くの関係団体と繋がりを広げる第一歩とすることを目指しました。展示コーナーを設けるとともに、パネルディスカッションでは、各方面で活躍しているパネラーに登場していただき様々な観点からのプレゼンテーションをしてもらいま

した。また、配付資料には、関西のNGO団体や関係団体を紹介したり、IYEOのこれまでの国際的、全国的活動紹介、並びに個人でも簡単にできる援助活動を紹介するなど工夫を凝らしました。

NGOについては「NGOダイレクトリー」を活用して情報を得ることができます。

〔発行者〕NGO活動推進センター(JANIC)

〒101 東京都千代田区神田錦町2-9-1

齊藤ビル5階

TEL 03-3249-5370

FAX 03-3249-5398



▲ 平成7年度事業参加者たちによる帰国報告のための展示ブース。私たちの体験を一人でも多くの人に伝えたい!!



国際交流や国際協力を推進している関西の団体（NGO等）について紹介したコーナー



▲ IYEO 会員を含め、沢山の方々に帰国報告の展示を見てもらうことができました



閉会式が行われた「海遊館」日本一の水族館や〜!? スケールの大きさに圧倒されました

大会2日目のドリーミング関西奈良コース
西大寺にて大茶盛を体験しながら歴史を振り返ってみました



全国大会懇談会の様子
こんなに大勢の IYEO
▼ 会員が集まりました

懇談会では、民族衣装を身にまとい
事業参加当時の気持ちになりきって



平成8年度事業日本参加青年募集担当都道府県主管課一覧

都道府県	主管課名	電話番号	募集期間	中間選考日
1 北海道	総務部知事室国際交流課	011-231-4111 (内21-216)	3/11 ~ 4/12	5/7
2 青森県	生活福祉部青少年女性課	0177-22-1111 (内2218)	3/11 ~ 4/11	4/26
3 岩手県	企画調整部青少年女性課	0196-51-3111 (内2352)	3/4 ~ 4/12	5/8
4 宮城県	環境生活部青少年課	022-211-2559 (直通)	4/1 ~ 4/22	5/7
5 秋田県	生活環境部青少年女性課	0188-60-1552 (直通)	3/11 ~ 4/12	4/25
6 山形県	企画調整部青少年女性課	0236-30-2101 (直通)	3/11 ~ 4/19	5/7
7 福島県	生活環境部青少年女性課	0245-21-7187 (直通)	3/11 ~ 4/17	5/7
8 茨城県	福祉部青少年課	029-221-8111 (内2744)	3/11 ~ 4/10	4/27
9 栃木県	県民生活部婦人青少年課	028-623-3075 (直通)	3/15 ~ 4/15	5/8
10 群馬県	教育委員会事務局青少年室	0272-23-1111 (内4143)	3/11 ~ 4/10	4/19
11 埼玉県	県民部青少年課	048-830-2912 (直通)	3/21 ~ 4/4	4/25
12 千葉県	社会部青少年女性課	043-223-2396 (直通)	3/11 ~ 4/5	4/25
13 東京都	教育庁生涯学習部社会教育課	03-5321-1111 (内54-442)	3/1 ~ 3/22 (郵送) 3/25 ~ 3/26 (窓口)	4/7
14 神奈川県	県民部青少年室	045-201-1111 (内3477)	3/11 ~ 3/29	4/29
15 新潟県	民生部女性児童課	025-285-5511 (内2511~3)	3月中旬~ 4/8	4/26
16 山梨県	企画県民局青少年女性課	0552-23-1357 (直通)	3/15 ~ 4/15	4/26
17 長野県	社会部青少年家庭課	026-235-7130 (直通)	3/21 ~ 4/19	5/8
18 静岡県	教育委員会事務局青少年課	054-221-3312 (直通)	3/14 ~ 4/15	4/24
19 富山県	生活環境部女性青少年課	0764-44-3138 (直通)	3/8 ~ 4/8	4/24~4/26
20 石川県	県民生活局女性青少年課	0762-23-9111 (直通)	3/18 ~ 4/18	4/26
21 福井県	県民生活部青少年女性課	0776-21-1111 (内2365)	4/1 ~ 4/26	5/7
22 愛知県	総務部青少年女性室	052-961-2111 (内2354)	3/22 ~ 4/15	4/21
23 三重県	生活文化部青少年女性課	0592-24-2406 (直通)	3/19 ~ 4/18	4/30
24 岐阜県	総務部青少年国際課	058-272-0810 (直通)	3/4 ~ 4/19	5/7
25 滋賀県	教育委員会事務局生涯学習課青少年対策室	0775-28-4661 (直通)	3/15 ~ 4/15	4/28
26 京都府	府民労働部青少年課	075-414-4306 (直通)	3/21 ~ 4/12	4/26
27 大阪府	生活文化部青少年課	06-941-0351 (内4844)	3/1 ~ 4/5	4/19
28 兵庫県	勤兵庫県青少年本部青少年交流担当	078-360-8581 (直通)	3/15 ~ 4/12	4/26
29 奈良県	生活環境部青少年課	0742-22-1101 (内3345)	3/1 ~ 4/10	4/18
30 和歌山県	民生部青少年女性課	0734-41-2503 (直通)	3/15 ~ 4/15	4/29
31 鳥取県	企画部青少年女性課	0857-26-7076 (直通)	3/21 ~ 4/19	5/7
32 島根県	健康福祉部青少年家庭課	0852-22-6255 (直通)	3/5 ~ 4/5	4/25
33 岡山県	企画部女性青少年対策室青少年課	086-224-2111 (内2543)	3/11 ~ 4/10	4/23
34 広島県	県民生活部青少年女性課	082-228-2111 (内2937)	3/11 ~ 4/12	4/25
35 山口県	企画部女性青少年課	0839-33-2634 (直通)	3/13 ~ 4/12	4/26
36 徳島県	企画調整部青少年女性室	0886-21-2175 (直通)	3/18 ~ 4/19	4/27
37 香川県	民生部青少年対策室	0878-31-1111 (内2383)	3/11 ~ 4/20	5/11
38 愛媛県	県民福祉部児童福祉課	089-941-2111 (内2528)	3/1 ~ 4/5	4/24
39 高知県	文化環境部国際交流課	0888-23-9605 (直通)	3/11 ~ 4/18	4/25
40 福岡県	企画振興部県民生活局青少年対策課	092-641-4740 (直通)	3/11 ~ 4/12	4/24
41 佐賀県	福祉生活部児童青少年課	0952-25-7055 (直通)	3/7 ~ 4/15	4/26
42 長崎県	教育庁生涯学習課	0958-24-1111 (内3366)	3/15 ~ 4/15	5/1
43 熊本県	福祉生活部県民生活総室	096-383-1111 (内3797)	4/1 ~ 4/15	4/26
44 大分県	福祉生活部女性青少年課	0975-36-1111 (内2734)	3/11 ~ 4/15	4/26
45 宮崎県	企画調整部女性青少年課	0985-26-7041 (直通)	3/1 ~ 4/15	4/30
46 鹿児島県	県民福祉部青少年女性課	099-226-8111 (内2151)	3/1 ~ 4/5	4/23
47 沖縄県	生活福祉部青少年課	098-866-2182~84 (直通)	3/15 ~ 4/15	5/7

* 都道府県レベルでの試験方法、手続きは異なりますので、受験該当地で確認して下さい。

「第8回世界青年の船」課題別視察



◀ ジャパン・タイムス社にて
熱心に質問をする外国青年



▲ 国会議事堂の前にて

テーマを持って、より交流を深めよう!

「第8回世界青年の船」参加外国青年の対する日本国内プログラムの一つとして、1月15日、東京において課題別視察が実施されました。

今回は、当日が祝日であったために訪問先が限られてしまい、分野別の十分なコースを組むことが出来なかったのは残念でした。それでも多くの関係者の方の協力でユニークな訪問先も設定することができ、16コースが組まれました。

いつものように、実行委員が3人一組でチームを組み、コースの下見、資料の収集、役割分担等、責任を持って行ってもらいました。年末年始が挟まるので日程調整も大変だったと思いますが、皆さん頑張ってくれました。みんなの熱意が通じたのか「絶対に雨」と言われていた天気も、なぜかあたたかな晴れ空。強行スケジュールにも関わらず外国青年も頑張っていました。

▼ 国立劇場で歌舞伎を鑑賞



▼ 本所防災館で人口呼吸の訓練に挑戦



「世界青年の船」 課題別視察のスタッフを務めて

大久保晶光（第21回東南アジア青年の船参加青年）

まだか。時間になっても帰ってこないグループを私たち IYEO スタッフは時間を気にしながら待っていた。1月15日、場所は国立オリンピック青少年センター。「世界青年の船」の「課題別視察」当日、もう夕暮れ時という頃だ。

「世界青年の船」「東南アジア青年の船」といった総務庁青少年国際交流事業には、「課題別視察」という招へい外国青年の為のプログラムがある。政治・教育・伝統芸能といったテーマを一つ選び、それに関連する施設を見学する。約十数名の外国人に、募集した日本人ボランティアがついて彼らをアテンドする。絶好の交流の機会だ。しかしこの「課題別」には単なる「交流」以上の可能性を秘めているのではないかと私は考えている。

「東南アジア青年の船」受け入れプログラムにボランティアとして参加した昨年の秋。手続きの遅れた私は、唯一空いていた「国会・最高裁」コースのアテンドをするボランティアとなった。硬いテーマでは余り盛り上がらないのではないかと不安に思ったが、それは杞憂だった。複雑な日本の政治状況を真剣に理解しようとしたインドネシアの青年。自分の専攻が法律だからと、自国の例を引きながら日本の司法制度に専門的な質問をしたフィリピンの女性。彼らの日本への関心の大きさは、その質問する真剣さに端的にあらわれていた。そこには「楽しい国際交流」というステレオタイプとは違う、自分の疑問に真摯に挑むという、「理解への挑戦」が存在した。それは彼らが自分の「課題」を選んでいるからこそである。

単に知り合うことから一段上の「理解」に進むには、その入口となる「課題（テーマ）」が必要なのではないか。無論、これは個人でも試みることができる。相手の日本に対する興味をよく聞き、共にそのテーマを深めればいいのだから。しかし「課題別視察」は一日という短い時間ながらも、プログラムとしてその必要性に応えようとしている。外国人に自国を伝えるには、自分自身も学ばなければならない。単なる「交流」からステップアップしたい人には、是非自分のテーマを定め、次の課題別視察に応募してほしい。今までとは違う手応えがそこにあるはずだから。

次のプログラムの集合時刻を気にして表情に余裕が無くなりつつあった私たちの前に、40分遅れで最後に戻ってきたのは、新聞社を訪問したグループだった。スタッフの間にホッとした空気が流れる。きっと彼らも記者の人やボランティアを質問責めにしたに違いない。遅刻はもちろん許されることではないけれど、「お帰りなさい」と言うだけにしておいた。

▼ NHKスタジオにて



▼ お好み焼作りにトライ!



海 友 会

橋本 雅史（海友会事務局長）

●海友会って何？

和歌山県内からの青年海外派遣事業への参加者が、主に親睦を目的とし、国際親善、国際交流の推進と協力（海外青年の受入れ）、海外派遣員の育成と選出、留学生や研修生の紹介・受入れなどのボランティア活動を行っています。

会員には、総務庁が行う海外派遣事業参加 OB、県が行う海外派遣事業参加 OB、近畿青年洋上大学参加 OB が中心となっています。

昭和 46 年に設立して約 1,200 名の会員がいます。

●どんなネットワークをもってるの？

和歌山を 8 つのブロックに分けていて、それぞれにブロック長と理事を配置しています。

年間の各事業を希望する地区（ブロック）ごとで取り組む他、ブロック別に多種多様な事業に取り組んでいます。

●活動資金は？

1 つは、入会金 20,000 円による資金です。ブロックによっては会費（3,000 円を上限）を徴収しているところもありますが、全体では入会金だけです。2 つめは、県からの補助金です。

●今後の課題

〔嬉しい悩みから〕

外国青年を受入れしたいというブロックが年々増えてきているというところです。初めは、不安

でも受け入れてみると楽しいという考えが定着しつつあります。

〔普通の悩みは〕

それぞれの団体でも同じだと思いますが、実際に活動してくれる人が少ないという点です。

人材の発掘と我々の活動の PR をもっと強力に推進していかなければなりません。その為に、現在「どのようにして情報を流し続け、情報の共有化を図るか？」を考えてます。

●最後に

関西国際空港の開港により、世界に近い和歌山県となりました。これからは、以前にもまして、国際交流が活発になると思われます。私たちが、他国を知り、文化を認めると共に、和歌山県の良さをもう一度見直し、外国の人に「WAKAYAMA」、日本人に「和歌山」をもっと知ってもらおうと考えています。

この度、「海友会」として日本青年国際交流機構に参加したことで、自分たちの持っているネットワークを世界中に広げる可能性を感じて大変楽しく感じています。

今後、皆様よろしく願いいたします。

「海友会」事務局

〒640 和歌山市福町 28 ハウスブルーネ 2 階

TEL・FAX : 0734-33-1264

世界の舞台へ ～上州吉岡船尾太鼓～



▲ モーツァルト広場での野外コンサート会場で
子供達も一緒にバチを握って練習

11月、オーストリア。モーツァルト広場の特設ステージ。目の前の観客は、ザルツブルク市民や世界からの観光客の人々。

バチを振り上げた瞬間、とうとうここまで来た、と熱い思いが込み上げてきた。あれから、どのくらい経つのだろう。

群馬県青年カナダ派遣を経験して、もっと視野を広げて世界中に友達を作りたい一心で、総務庁青年海外派遣団に応募。合格後の事前研修の時に参加したオリンピックセンターでの「青年の村」参加青年達のレセプション・パーティーで、招へい青年達は皆それぞれ自国の伝統芸能を紹介してくれた。

艶やかなチマチョゴリの舞踊、勇壮なミクロネシアのダンス、リズムカルなアフリカン・ミュージック……。青年達は、皆輝いていた。

「日本人の俺は、日本の何ができるのだろう」とふと思ひ、何も出来ないことに気がついた。恥ずかしかった。それが、きっかけだった。

大島 倫明（平成3年度青年海外派遣南米班）
上州吉岡船尾太鼓会長

有志を募って、青年団仲間のいるお隣の小野上村に通って太鼓を習い、地元吉岡町では太鼓購入の運動に奔走。ようやく、技術も一人前になり、群馬青友会の民泊受入れ事業のお手伝いができるまでになった。UAE、オランダ、ガボン、モルジブ、インド、ヨルダン、アセアン6か国、それぞれの青年達に「これが日本の太鼓」と胸が張れるようになった。

この間、実に多くの人と知り合い、助けられ、今こうして世界の大舞台に立っている。

様々な思いを込めて、バチを振り下ろした。アルプスの麓に響いた太鼓の音は、ヨーロッパの人々の心にまで届いてくれただろうか。

“Joshu Daiko” Shown in Austria



An ensemble of traditional Japanese drummers from Yoshioka Town, Kitagunma district, named “Joshu Yoshioka Funao Daiko,” recently traveled to, and took part in an event in Salzburg, Austria. As part of the 10th Japanese Week in Europe the group held live concerts and fascinated citizens and travelers in the area with their skilled playing of the *wadaiko*.

The event, “The Japan Week in Europe” has been held in various places throughout Europe since 1986. The event has been held to help improve relations between Japan and the people of Europe. Through various activities such as entertainment, music and sport organizers have aimed to allow people

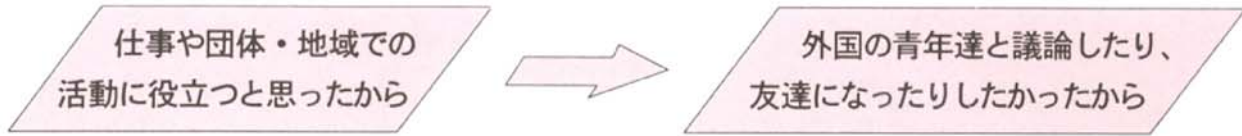
a better understanding of the respective cultures of Japan and Europe.

At this year's event 3,000 people from 150 groups in Japan have demonstrated various aspects of Japanese culture. The events have included *koto*, *wadaiko*, *minyo* and *kimono*. From those who participated, there were two groups representing Gunma prefecture. As well as “Joshu Funao Daiko” there was a *koto* group from Maebashi.

“Joshu Funao Daiko,” was set up in 1991 and currently has 24 members. Out of the 24, 14 went to the recent event in Austria. Up until the overseas trip, the group has performed much closer to home, playing concerts for the disabled, young and elderly at nursing homes and nursery schools throughout the local area.

Throughout the six days of the event in Austria the group played at sites both indoors and outdoors. While playing their pieces for the *wadaiko*, such as “Funaoaki,” the audience were seen to be enthralled by the music. At times young children from the audience were encouraged to take part and join in with the drumming on the stage.

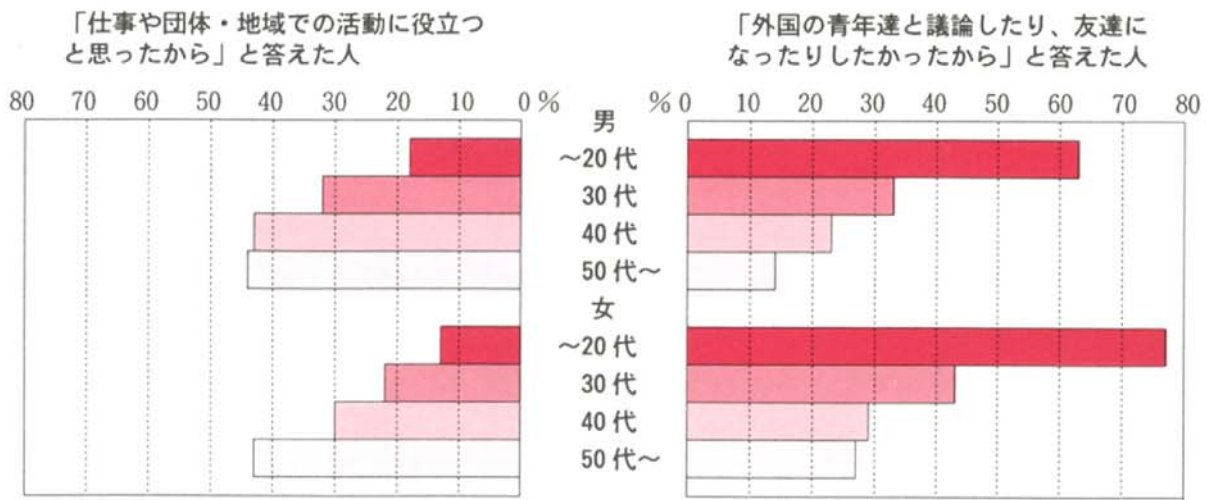
国際交流事業に参加した主な理由



昭和34年度に青年海外派遣が始まり、その後昭和42年度に青年の船、49年度に東南アジア青年の船、63年度に世界青年の船と、青少年対策本部の国際交流事業の進展に応じて、参加青年の意識も大きく変わりました。〔このページは、平成6年11月にIYEOの全会員を対象に行った「国際交流と事後活動に関するアンケート」(回収率51%)の結果の紹介です。〕

〔問2〕あなたが問1の国際交流事業(注)に参加した主な理由は何でしたか。次の中から3つまで選んで○をつけてください。(注：青少年対策本部の国際交流事業のことです。)

● 自己啓発になると思ったから	54.0%
● 訪問国に関心があり、その国の実情を知りたかったから	39.6
● 仕事や団体・地域での活動に役立つと思ったから	33.9
● 外国の青年達と議論したり、友達になったりしたかったから	31.7
● 外国の実情を詳しく知りたかったから	26.7
● 同行する日本青年達と知り合え、仲良くなれるのが楽しみだったから	20.2
● 友人、先輩、上司などに勧められたから	18.6
● 安い費用で内容のある外国旅行ができると思ったから	13.2
● 国の事業だから権威があり、信頼できると思ったから	12.2
● 人生の転機にしたいと思ったから	11.8
● その他、不明	11.9
回答合計	273.7



インフォメーション

シャプラニール（市民による海外協力の会）

あなたも会員になってみませんか？

昨年7月のマクロコズムで紹介したシャプラニールの下沢巖さんの講演記事に感動された方は、多かったと思います。貧しいバングラデシュの農民に、お金や技術を「与える」のではなく、彼ら自身の自立の力を「引き出す」お手伝いをする話された下沢さん。では、その具体的活動は？

1. 農民自身が貯金をし、生活改善のために、その使い方を話し合う相互扶助グループを育成。現在、約650のグループを支援中。
2. 文盲率が高い農村部で、成人識字学級を運営。95年までに、約1万5千人が卒業。
3. 伝染病や寄生虫の問題を防ぐため、95年までに井戸を約2千、トイレを約5千3百設置。

24年に渡るこれらの活動に対して、シャプラニールは、外務大臣特別表彰、毎日国際交流賞、吉川英治文化賞、等を受賞しています。

シャプラニールの活動を支えている会員は、現在、約3千名。下沢さんは、シャプラニールの活動に賛同される方の支援を求めています。

会員には、会報、講演会や行事のお知らせ、現地を訪ねるスタディーツアー、バングラディッシュ手工芸品の割引販売などの特典があります。

〒169 東京都新宿区西早稲田2-3-1

早稲田奉仕園内

シャプラニール東京事務所

TEL 03-3202-7863

FAX 03-3202-4593

著書紹介：ボーイスカウト（中公新書）

「第2回東南アジア青年の船」参加青年の田中治彦氏が、20世紀青少年育成の原型となったボーイスカウトについて、創設者である英国軍人ベータン・パウエルの生涯とともに描いています。

〔1980年代の後半から、国際的にはベルリンの壁が崩壊し、国内でも55年体制と呼ばれる政治の仕組みが崩れた。誠に静かではあるが、これらに匹敵する重大な変化が進行中である。それは、青少年の意識と行動である。子どもの世界から徒党を組んで遊ぶ姿がすっかり消えた。青年たちは団体活動に魅力を感じていない。ボーイスカウトに限らず、あらゆる青少年団体は子ども数の減少と彼らの興味関心の変化というダブルパンチを受けて大変な苦戦を強いられている。小集団を中心とした従来の健全育成の方法がもはや通じなくなっているのである。〕

21世紀まであと数年というこの時期にあって、ボーイスカウトという20世紀青少年育成の原型を振り返ってみることは無駄なことではあるまい。その中から21世紀につながるものとそうでないものをより分けてみようではないか。……本文より〕

著者：田中 治彦（岡山大学助教授）

発行所：中央公論社

第6回青少年国際理解セミナー

「東南アジア青年の船」帰国報告会

平成7年度の「第22回東南アジア青年の船」参加青年による帰国報告会が下記の日程で行われます。総務庁青少年国際交流事業について知りたいと思っている友人知人の方々に、ぜひ知らせてあげてください。平成8年度の募集についての情報コーナーも設けています。事業に応募しようとしている方にとっては選考試験の情報収集のためにも見逃せないチャンス。

日 時：1996年3月17日(日) 12:30～16:30

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流館第1ミーティングルーム

参加費：無料

主な内容：アセアン各国での活動を撮影した写真や団員が持ち帰った品々の展示、ビデオ上映、事業体験談発表、グループ別懇談等のプログラムに各国のお茶やお菓子を楽しみながら参加していただきます。

申込み：(財)青少年国際交流推進センターの「セミナー係」まで電話、FAX又は葉書にてお申込み下さい。宛先は、下欄の(財)青少年国際交流推進センター事務局へ。

平成8年度は、宮崎にて全国大会!

平成8年度の日本青年国際交流機構第12回全国大会は、11月30日(土)、12月1日(日)宮崎県のあの有名なシーガイアで開催されることに決定しました。

久しぶりに、九州での全国大会。宮崎のメンバーが、楽しく有意義な企画を用意して待っています。皆さん、家族、仲間を誘い合わせて冬の九州を楽しみましょう!

編集後記

「第8回世界青年の船」も、3月18日(月)には晴海に帰航します。新しいメンバーを加えての活動が楽しみです。平成8年度の事業参加者の募集も始ま

り、さらに新しい仲間も増えていきます。こうした人の輪の広がりをもどのようにすれば大切に育てられるのか、みんなで考えてみませんか。(Y/R/H/Y/O)

*本誌の年間講読をご希望の方は、(財)青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM(マクロコズム) 3月号 Vol.9 1996年3月1日発行(隔月発行)

編集：マクロコズム編集委員会

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail LDP 04056 @niftyserve.or.jp

編集協力：総務庁青少年対策本部

日本青年国際交流機構

定 価：195円(本体189円)

印刷所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

第22回東南アジア青年の船

「東南アジア青年の船」事業は、アセアン諸国と日本の共同声明に基づいて、昭和49年に開始されたものである。ベトナムのアセアン加盟により、今回、オブザーバーとしてベトナム青年8名が参加した。各国では、公式訪問・交流会・課題別視察などのプログラムの他に、ホームステイが必ず組まれているのが本事業の特徴である。船内では、8か国の青年が共同生活をする中でディスカッションや文化交流プログラム、クラブ活動などが、青年の自主性に基づいて行われる。

「第22回東南アジア青年の船」は、1995年9月28日日本青年45名と各国NLを乗せて東京港を出航した。10月6日アセアン7か国からの青年275名がブルネイに参集した。訪問国での寄港地プログラムと航海中には船内活動を行い、11月13日の帰航後は9日間の日本でのプログラムを体験した。11月21日各国青年は無事帰国し、全事業が終了した。

寄港地活動より



ホームステイ（ブルネイ） ▶
ホストファミリーとともに
自宅にて



▲ 我が家となった“にっぽん丸”（シンガポール）



▲ 事前研修を終了して、団員決定書を上村青少年
対策本部次長から受け取る団員達

◀ 表敬（フィリピン）

感激のラモス大統領表敬訪問





◀ ウェルカムパーティ（インドネシア）
 伝統のインダンダンスで歓迎の意を示してくれました



船内プログラムより

日本国内プログラムより



◀ 文化紹介（茶道）



◀ 地方旅行での歓迎会

▼ ディスカッション

